

エアレースの見どころとルール

エアレースはただ速ければ勝てるレースではない。パイロットは己の技術を使い、コースにある障害物をいかに正確に、そして速くクリアするかが勝負の鍵であり、最大の見どころである。

パイロンの飛行方法

スピードだけでなく正確性も求められるエアレースでは、コースを守り、パイロン（障害物）を規定の方法で通過しなければならない。

パイロン・ゲートの平行通過

パイロン・ゲートの色が青い場合、パイロットは翼を地面と平行にして通過しなければならない。航空機の平均の幅が約8メートルで、時速が400キロメートルに近いことから、約14メートルの間隔で立つパイロンに接触しないように通過するには非常に高い技術が求められる。



Photo by Christian Pondella

Photo by Joerg Mitter

パイロン・ゲートの垂直通過

10メートルの間隔で立つパイロン・ゲートの色が赤い場合、パイロットは翼を水面に対して垂直（ナイフエッジとも呼ばれる）にしてゲートの間を通過しなければならない。平行通過以上にパイロンの間隔が狭いため、翼を水平にして通過することは不可能に近く、より難易度が高い。通常パイロンを抜ける時、胴体腹部をターンの内側にして通過しなければならない。



Photo by Balazs Gardi

スラローム・ゲートの通過

3本のパイロンがスキーのスラローム（回転競技）のように立ち、パイロットはそのパイロンをまわって通過する。パイロットはまわり方（小まわりか大まわり）を選べる。タイムを短縮するには小まわりが良いが、技術的な難易度が高くなる。



Photo by Denis Balibouse

ハーフ・キューバン・エイト

パイロットは航空機を逆さまにして45度の急上昇を行い、逆さまのまま180度Uターンして、急上昇前の高度に戻りながら航空機を正常の向きに直す。



Photo by Daniel Grund

コース

- レースは、1人1人のパイロットが別々に行う。
- 全長約1.4キロメートル。

ペナルティ

以下の場合には3秒のペナルティが科される。



スラロームのコースなどで、ターンなどが正確にできなかった時。



パイロン・ゲートを、規定どおりに翼を垂直または平行にして通過しなかった時。



垂直飛行の際、航空機を傾かせる向きが間違っていた時。



パイロン・ゲートを通過するときの高度が高すぎる時。

以下の場合には10秒のペナルティが科される。

航空機の翼、またはプロペラがパイロンに接触した場合（危険とみなされた接触の場合は失格になる場合もある）。



Photo by Balazs Gardi

失格

深刻な違反については失格になる場合がある。



●危険な飛行

- ・水面、パイロンなどに危険な接近をした時。
- ・危険な低空飛行をした時。
- ・観客ラインを越えた時。
- ・その他の危険とみなされる飛行をした時。



Photo by Balazs Gardi

●コース違反

- ・規定のコースを飛行しなかった時。
- ・スラローム飛行を怠った時。